



※ 注) 競技日程の時刻は、予定の時刻であり、参加チーム数、進行状況によって変更になる場合がある。  
グループについては、**第一グループ：県南、第二グループ：県北・天草、第三グループ：県央**とする。

9 競技規則 本大会実施要項による。また(公財)全国高体連弓道競技規則による。

10 競技方法 (1) 団体競技および個人競技は、次のとおりとする。

ア 団体競技

① 予選は1チーム単位により、各自4ツ矢2回8射(立射)を行い、的中数上位より8チームを予選通過とする。

② 決勝戦は予選通過8チームのトーナメント戦とし、各自4射計20射により行う(立射)。

イ 個人競技

① 団体戦・個人戦の成績(的中数)により順位を決める。的中数が同じである場合1位を決定する場合に限り射詰とし、その他は遠近法によって決定する。なお団体の補欠の選手については3年生のみ個人予選への参加を認める。また、団体予選に出場した3年生以外の成績については、個人の成績としては除外する。

② 射詰9射目以降は24cm 星的を使用する。

(2) 団体競技において同中の場合は、各自1本ずつの競射を行い、勝敗を決定する。(競射の1本目は、替矢を使用する。)

(3) 矢返しは、4ツ矢終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは行わない。

(4) 競技時間の制限

ア 競技時間は、本座における進行係の合図によって始まり、最後の射手の最後の弦音で終わる。

イ 団体競技の行射制限時間は1チーム6分とし、5分30秒で予鈴を鳴らす。

ウ 弦切れ、その他の事故が生じても時間の延長はしない。

エ 個人競技および1射ずつの競射については、進行係又は、審判員の指示に従うこと。

(5) 行射

すべて立射で行う。

(6) 交代・変更

[選手]

ア 団体選手の交代は、申込書に記載した登録選手以外は認めない。

イ 団体競技の先発メンバーは登録順に5名とし、予選においては、監督会議の際とそれ以後の1回、計2回、また決勝トーナメント戦においては、監督会議のとき1回と競技開始後2回の計3回の交代を認める。したがって交代退場した選手の再出場はできる。

ウ 第1回の交代は監督会議終了直後まで、第2回以後は第3控に入る前までに、それぞれ所定の用紙に記入し、監督が届け出るものとする。

エ 交代は1回につき2名以内とする。

オ 所定の交代をした後、選手に事故が生じて欠場する場合は、欠員のまま団体とする。

カ 個人選手の交代は認めない。

[監督]

ア 監督の変更は、選手が第3控に入る前までに文書により、原則として新監督が届け出ること。

イ 生徒の監督代行は、当該校の監督が本大会の役員を兼務する場合に限り認める。

- 11 参加資格
- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校に在籍する生徒であること。
  - (2) 選手は、本連盟加盟校の生徒で、本競技実施要項により参加の資格を得たもの。
  - (3) 年齢は、平成13年4月2日以降に生まれた者とする。
  - (4) チームの編成において、全日制課程と定時制課程、通信制課程の生徒の混成を認めない。
  - (5) 複数校合同チームによる大会参加
    - ア 再編・統合の対象となる学校について認める。
    - イ 少子化等に伴う部員不足による複数校合同チームの大会参加は、別に定める「複数校合同チームの大会参加規程」に従う。
  - (6) 転校・転籍後6カ月未満の生徒の参加は認めない。(外国人留学生もこれに準じる。)ただし一家転住等のやむを得ない事由による場合は、弓道専門部で調査し、県高等学校体育連盟会長に諮る。
  - (7) 参加選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。1年生は、原則として出場を見送ることとする。ただし、チーム編成上出場が必要な場合は、必ず医師の事前健康診断を実施するなど慎重に対応すること。
  - (8) その他の事項については、全国高等学校体育連盟規定、九州高等学校体育連盟規定の参加資格に準ずる。
  - (9) 参加資格の特例
    - ア 上記(1)に定める生徒以外で(2)～(6)の大会参加資格を満たし、かつ、県高体連が承認した生徒を、「大会参加資格の別途に定める規程」に従い、大会参加を認める。
    - イ 学年の区分を設けてある課程に在籍する生徒の出場は、3学年までの年齢19歳未満の者に限る。(同一学年の参加は同一競技、1回限り)
- 12 参加制限
- (1) 1校より男女各1チーム以内、1チームの編成は監督1人、選手7人までとし、選手4人未満は個人としての出場とする。
  - (2) 3年生の出場を優先し、団体として人数が不足する場合は1・2年生の出場を認める。
  - (3) チームの先発メンバーは申し込み記載順に5人とする。団体のメンバー5人中に必ず3年生を入れること。
- 13 引率・監督
- (1) 引率責任者は当該校の教員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、県高体連会長に事前に届け出る。
  - (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合はスポーツ安全保険(傷害、賠償責任保険等)に必ず加入することを条件とする。
- 14 個人情報の取扱い
- 本大会の参加申込書等によって取得した個人情報の取扱いについては、「熊本県高等学校体育連盟個人情報保護方針」に基づき取り扱う。なお、参加申込書の提出をもって、これらの取扱いに関して参加者生徒及びその保護者の承諾を得たものとして対応する。
- (1) 参加申込書に記載された個人情報の取扱い
    - ア 大会プログラムへ掲載する。
    - イ 競技場内でのアナウンス等による照会・コールすることがある。
    - ウ 競技場内外の掲示板等に掲示されることがある。
  - (2) 競技結果(記録)等の取扱い
    - ア 熊本県高等学校体育連盟ホームページで公開することがある。

イ 大会報告書、熊本県高等学校体育連盟年報、熊本県高等学校体育連盟周年記念誌へ掲載することがある。

ウ 報道機関等の取材により、新聞等のメディアで公開されることがある。

15 参加申込

(1) 申込書類

参加申込書 1部

(2) 申込方法

参加申込書を、下記申込先あて郵送すること。(FAXでは受け付けない。)

(3) 申込先

〒861 - 0532 山鹿市鹿校通三丁目 5-1

県立鹿本高等学校 富田 満秋あて (TEL) 0968 - 44 - 5101

※なおプログラム作成省力化のため、文書による申込みとあわせて、別紙要領に従い

Eメール(Excelファイル添付)でも選手名簿をお送り願います。

(メールアドレス ; [tomita-m-ki@mail.bears.ed.jp](mailto:tomita-m-ki@mail.bears.ed.jp))

(4) 申込み締切日

令和2年7月10日(金) 必着

16 参加料

徴収しない

17 表彰

(1) 団体競技は男女第3位まで、個人競技は男女第6位までそれぞれ賞状を授与する。

18 諸会議等

(1) 役員打合せ、監督会議は「8 競技日程」中に記載。

(2) 各学校の監督は、全員必ず第一日目の監督会議に出席すること。

19 立 順

弓道専門委員会において決定し、大会前に各学校に通知する。

20 連絡事項

(1) 競技の服装は弓道衣、袴、白足袋とする。袴へ刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後ろにする。(平成27年度入学生より適応)

(2) 鉢巻を使用する場合、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名に限り入れてよいが場所は鉢巻の端とする。

(3) 選手は、所定のゼッケン(別記)を用意し、行射の際、全員が右腰前に着けること。

(4) 弓に照準の目印等をつけてはいけない。

(5) 出場選手は、4ツ矢の他に筈打ち、筈割れ、競射の場合に使用する替矢を2本持参すること。

(6) 監督不在のチームは出場を認めない。

(7) 監督は選手とともに入場し、所定の位置につくものとする。

(8) 第3控から第2控に移動するまでに集合しない場合は、その立に限り、その選手は棄権とする。そのために団体の人員に欠員が生じても欠員のまま団体とする。

(9) 応援は、拍手のみとし、発声は禁止する。

(10) 競技審判規定は(公財)全国高体連弓道競技規則によるほか、(公財)全日本弓道連盟競技規則も準用する。

(11) 参加選手は、熊本県スポーツ災害見舞金、またはスポーツ傷害保険に加入していることが望ましい。

(12) 試合上の留意点(コロナウイルス対策)について

《試合運営》

○時間短縮及びコロナウイルス対策のため、開会式・閉会式は行わず、表彰式のみ射場で行う。

○第三控を弓道場正面玄関外側、第二控を弓道場内、第一控を射場内とする。道場、射

場内での椅子の使用はしない。

- 第二控えで、目視による弓具の点検をする。(道具への接触はしない)
- 射場記録の補助員は置かず、的前の補助員は半減する。

射場記録、矢取・看的はすべて教員で行う。

的前審判の教員を第1射場・第2射場とも3名とし、各射場補助員4名とともに的中ボード置きと矢取りをする。矢取り後、土を落とし、アルコール消毒で拭き上げ、矢返しを行う。

#### 《参加者》

- 各校選手7人のみ参加ができる。選手でない1・2年生の部員、引率者以外の教職員・保護者・卒業生等の観戦・応援は認めない。
- 試合当日の朝、試合会場で、検温を行い、37.5℃以上の熱のある選手・監督は参加させない。帰宅してもらう。
- 競技中以外はマスクを着用し、射場に入場する直前にマスクを外す。介添えはマスク着用。
- 選手は各自、自分の弓・矢・碟を使用し、他の選手の使用したものに一切触れない。

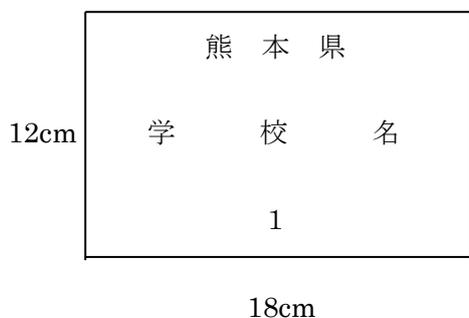
#### 《その他感染防止対策》

- 控え所として道場内は使用せず、選手は弓道場で各校は離れて待機する。雨天時はテント等を使用し、屋外で待機する。また、隣接する体育館のロビーなどで待機しないこと
- 射位は、1.8m間隔とする。(通常の試合は1.5m間隔)
- 試合中の選手の発声は禁止(競技規則)。
- 屋内ではあるが、前方向が開放されており、換気ができている。道場の窓はすべて開ける。

#### 《同意書及び証明書・検温確認表について》

- (同意書)各学校の顧問は代替大会各競技に参加(補助員を含む)する生徒へ配付し、取りまとめる。同意書は、大会終了後1ヶ月間各学校で保管する。
- (証明書)各学校は、同意書提出に伴い競技毎に、大会当日各専門部に証明書を提出する。
- (検温確認表)「別紙2:顧問・選手(補助員含む)用」は、当日の朝、各自で検温を含めた健康観察を行い記入し、顧問が大会会場にて提出する。

#### [ゼッケンについて]



- (1) 白地の布に、県名・学校名は黒色。男子選手番号は黒色、女子選手番号は赤色で記入する。
- (2) 県名は必ずしも入れる必要はないが、新規につくる場合は、できるだけ入れておくこと。  
(九州大会、全国大会では必要)
- (3) 選手番号はチーム内立順番号(1~7)とする。なお、この番号は選手の登録番号となるので、選手が交代してもゼッケンのつけかえはしないこと。
- (4) 定められたゼッケンを着用せずに行射した選手の成績は参考記録扱いとなるので注意すること。